



命の尊さ

命よりも高価なものは存在しません

ホセ・ムヒカ / 政治家

命の大切さを学ぶ教室

4月28日(火)「命の大切さを学ぶ教室」が開催されました。

お話をしてくださったのは宮地美貴子さん。宮地さんのご長男は2002年、自転車に乗っているところを車にはねられ、翌年に帰らぬ人となりました。幸せだったご家族の日常、思い描いていた輝かしい未来が突然失われた悲しみや苦しみを語っていただきました。交通事故の悲惨さや、命の尊さを学びました。



【生徒の感想】

- 私はいつも学校に行くとき、親に「いってらっしゃい」「気をつけてね」と言われていて、それが日常になっています。「はい!」としか返事をしていなかったけど、この話を聞くと親は「無事に帰ってきてね」と思いながら言っているのかなと思いました。それに最近は怒られたら反抗してしまうことが多かったので、しっかり考えて話していきたいです。そして親からの言葉はしっかり心に残して登下校したいです。(1年生生徒)
- まず一番に「他人事じゃないな」と強く感じました。宮地さんの話を聞いて、いつ、誰が、どこで亡くなるかなんて誰も想像できない、したくないことだと改めて思いました。宮地さんは想像できない以上のつらい経験をされています。ですが、それでも前を向いてこうやって私たちに話をしてくださり感謝しかありません。今回の話を通して、自転車の交通ルールを守ることをもう一度見つめ直し、命を守る行動をとっていきたいです。(2年生生徒)
- 今日のお話を聞いて私は、とろとろ涙そうになりました。「もし私が…、もし私の周りの人が…」と思うと、心が重くなって苦しくなりました。今回の宮地さんの体験談を聞いて、「本当に明日があるのは当たり前じゃないんだな」「人ごとじゃないんだな」と改めて痛感しました。また大切な命が理不尽に奪われることは想像しただけでもとても悔しく、絶対にあってはならないことだと強く思いました。私は、自転車に今のところ乗る予定はないですが、歩道を歩く時に車に注意を払ったり、将来車を運転する時には周りをよく確認し細心の注意を払って運転したりするようにします。命の大切さについて学ばせていただきありがとうございます。(3年生生徒)

掃除中の風景

掃除の様子を見ていたら、ある1年生が柱とロッカーの細い隙間に手を伸ばし、きれいにしていました。「すごいな」って思いました。

まだ1年生で、中学校の掃除、新しい掃除場所の掃除にやっと慣れてきたかなという頃。それなのに、こんな隙間の汚れに気づき、そしてそこをきれいにしようと行動したのです。

学校をキレイにしてくれて、ありがとう♪感動すると同時に、心が温かくなりました(^^)



◆ 学校ホームページ

お子様の学校での様子を、足羽中ライフ(ブログ)で紹介したり、行事予定やおたよりを掲載したりしています。ぜひ、ご覧ください。
【本校HP】 <https://asuwa-junior-high-school-fukui.edumap.jp/>

保護者・地域の皆様のお声をお聞かせください。
もちろん、生徒の皆さんも!

■ ご意見・ご感想をお待ちしております。

<https://forms.cloud.microsoft/r/4uGnH2mn6M>

